

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・情報の扱い方に関する事項の校内平均正答率が全学年目標値を上回った。
- ・読むことに関する事項の校内平均正答率が全学年目標値を上回った。
- ・我が国の言語文化に関する事項の校内平均正答率が、1、2学年で目標値を超えていた。

(2) 課題

- ・言語の特徴や使い方に関する事項の校内平均正答率が全学年で目標値を下回っていた。
- ・書くことの事項の校内平均正答率が全学年で目標値を下回っていた。
- ・話すこと・聞くことの事項の校内平均正答率が2、3学年で目標値を下回っていた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	「読むこと」「話すこと・聞くこと」「言語文化に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」において目標値を上回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」で目標値を下回っている。		
第2学年	「言語文化に関する事項」「説明的な文章の読み取り」「スピーチ」については目標値、全国平均を上回っているが、「書くこと」で目標値を大きく下回っている。	「書くこと」で目標値を大きく上回っている。 「言語文化に関する事項」「説明的な文章の読み取り」については目標値、全国平均を下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	「知識・技能」において目標値を上回った。 「思考・判断・表現」において目標値を下回った。「主体的に学習に取り組む態度」において目標値を下回った。	「知識・技能」において目標値を下回った。 「思考・判断・表現」において目標値と同一だった。 「主体的に学習に取り組む態度」において目標値を上回った。 (第2学年時)	全ての項目で目標値を上回った (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を書くことが目標値を大きく下回っているが、漢字を読むことは目標値を大きく上回っている。	・文章を書くことが目標値を下回っているが、それ以外の読み取りに関しては目標値を上回っている。	・文章を書く問題が、目標値を下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を書くことは目標値をわずかに下回っているが、昨年に比べ、数値を平均近くまで伸ばしている。	・目標値は達成しているが、書くことにかかわる項目の数値が昨年に比べ下がっている。	・目標値を達成できていないが、スピーチなど学年全体で数値を伸ばしている項目もある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を書く校内平均正答率が目標値を超えていた。 ・文法・語句に関する事項が目標値を下回っていた。	・文学的な文章の内容を読み取る校内平均正答率が目標値を超え、説明的な文章の内容を読み取る校内平均正答率が目標値を下回っていた。	・記述式の問題の多くで、校内平均正答率が目標値を下回っていた。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の書きの力をつけさせるために、毎週漢字テストを行い、日常的に漢字を書く習慣をつける。	・文章を書く力をつけさせるために、単元ごとに課題作文に取り組み、評価をフィードバックする。	・毎授業目標を明確にして、目標に対してどのように取り組んだかを自己評価させる。また、自己の学習を調整しながら目標を達成できるように取り組ませる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み、書きの力を定着させるため、十分な準備をした上で確認の学習ができるよう、長期休業明けに漢字テストを実施する。	・書く力をより確実なものとするため、各单元の中で、短作文を必ず取り入れ、その反復の中で自己評価を行う。	・情報を理解し、文法、漢字など、学習を調整することで原稿を作成して、スピーチテストを毎学期実施する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字プリントを配布し、定期考査等で出題をする。また、言語事項や文法事項などの内容を一度復習し、テストを実施するなどして学び直しの機会を設ける。	・説明的文章の読み方について重点的に指導に取り組み、筆者の主張や文章の構成などを理解できる力を高める。	・スピーチ発表などの機会を授業内に設ける。その発表原稿の作成などを通して、記述式の問題への苦手意識の改善に努める。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用し、生徒が意欲的に授業に取り組んだ。
- ・話し合い活動行い、生徒が思考する機会が増やした。

(2) 課題

- ・基礎、基本的な内容の定着。
- ・資料を読み取り、表現する能力の向上。
- ・ICTを活用し、話し合い活動や調べ学習を充実させる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎も活用も目標値を下回った。	/	/
第2学年	基礎も活用も目標値を下回った。	基礎も活用も目標値を下回った。 特に基礎は大きく下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	基礎も活用も目標値を下回った。 特に活用は大きく下回った。	基礎も活用も目標値を下回った。 特に活用は大きく下回った。 (第2学年時)	基礎も活用も目標値を下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている	目標値を下回っている	目標値を下回っている

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている	目標値を下回っている	目標値を下回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく下回っている	目標値を下回っている	目標値を大きく下回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを行い、基礎知識の定着を目指す。	資料から読み取れることを記述させたり、話し合わせたりする機会を増やす。	調べもの学習の課題や、グループ学習による発表の機会を増やす。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の初めに小テストを行い、基礎知識の獲得を目指す。	資料から読み取れることを記述させたり、話合わせたりする機会を増やす。	作品を作るなどの課題を多く実施する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業中に重要語句を繰り返し扱う。	資料から読み取れることを授業中に記述させ、考える習慣を身に付けさせる。	自分なりに工夫したノートを作成させる。

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単元テストや小テストを多く取り入れ、復習の機会を増やし、基礎・基本の定着につなげた。
- ・グループ学習や教え合いの時間を確保し、さまざまな解法を見出すことができた。

(2) 課題

- ・文章問題や応用問題への苦手意識が強く、取り組みに対する姿勢が消極的である。
- ・授業中には理解しているが、定着できていないため、試験での得点に結びついていない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎と活用ともに目標値に近い結果となった。記述形式の問題が目標値を大きく下回った。	/	/
第2学年	昨年度から正答率が上がっているが、目標値に達していない。特に記述問題は標準値を大きく下回った。	基礎と活用の正答率は共に目標値を下回った。特に、「小数・分数の計算」で大きく下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	昨年度から正答率が上がっているが、目標値には届いていない。特に図形分野においては目標値を大きく下回った。	昨年度から正答率が上昇し、目標値を上回った。「計算の復習や空間図形」では目標値を下回った。 (第2学年時)	活用では目標値を上回った。「小数や分数の計算」、「データの活用」で大きく下回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数の計算等、基本的な計算が定着していないところがある。図形でも公式等が定着していない部分がある。	文章問題の立式や、具体的に説明をする問題で課題が見られる。	できない問題への取り組み方について、粘り強く問題と向き合えるとよい。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
負の数の大小関係や方程式での移項の定着不足、関数の意味、相対度数や中央値など用語の意味を理解していない部分がある。	数量関係を式に表すことや、文字を用いて立式すること、説明形式に則って表現することに課題がある。	話を聞く態度や集中して取り組む姿勢に課題がある。解き方や求め方を習った用語を用いて説明する練習が必要である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
復習や基本的な問題の繰り返し学習時は実施しているが、定着が十分ではない。	文章問題から数量関係を理解し、立式することが苦手である。	計算問題には繰り返し取り組もうとするが、文章問題は、わからないと感じたらすぐにあきらめてしまう。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
領域ごとに復習をする時間を設定して、これから取り組む学習につなげていく。タブレットを利用し、繰り返し学習ができる環境を整える。	学び合い活動やグループでの活動を通して、他の生徒に表現をする場を設定する。	ワークシートや確認プリントを活用して、全体の理解度がどの程度かを見ることができるようにし、目標を意識させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
練習問題など多く行い定着を図る。	用語の意味、簡単な問題や例題の解き方を説明させたりして、言語化して伝える訓練を行う。	「できたこと」を見える化し、学ぶ意欲を高めたり、課題を明確にさせて支援する機会を増やす。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
復習問題を多く取り入れ、基本的な内容の定着を図る。タブレットのドリルなどを利用し、繰り返し学習ができる環境を整える。	様々な種類の問題に挑戦させ、解法を丁寧に説明し、文章問題への苦手意識をなくしていく。	「問題を繰り返し解く」ことで「できる」につながるように、課題を工夫していく。また、授業内での発言機会を増やし、自信をつけさせる。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを活用し、学習意欲を高めることができた。
- ・問題演習を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・ICTを活用した個別最適な学びの推進。
- ・観察・実験を安全に実施し、技能の向上を図る。
- ・主体的・対話的で深い学びにつなげるための、科学的思考を深める工夫。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値を下回っており、特に物質・エネルギー分野の正答率が低い。	/	/
第2学年	目標値を下回っているが、生命分野の知識技能に関しては全体の50%を超えており、目標値に近づきつつある。	目標値を下回っており、特に生命・地球分野の正答率が低い。 (第1学年時)	/
第3学年	全体として目標値を下回っているが、達成率は第1学年時のレベルまで、回復している。特にエネルギー分野の正答率は他分野に比べて高かった。	目標値を下回っている。特に植物や動物の分類、光や音の性質についての正答率が低い。 (第2学年時)	目標値をわずかに上回っているが、植物のつくりとはたらきの正答率は低い。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。水溶液の性質や電気の利用の正答率が低かった。	目標値を上回っている。電気の利用の正答率が低かった。	目標値をわずかに上回っている。電気の利用の正答率が低かった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っているが、正答率は全体の50%を上回っている。思考・判断・表現や主体的に取り組む態度よりも正答率は良い。	目標値を下回っている。各領域で記述問題よりも選択して回答する問題の方が正答率が高かった。全体の領域で基礎問題は正答率50%程であった。最も正答率が低いのは粒子の分野である。	目標値を下回っている。生命の領域では正答率が目標値に近かったが、エネルギーの領域では正答率が大きく下回っていた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。特に地球分野の正答率が大きく下回っていた。	目標値を下回っている。植物分野の選択問題や地球分野の記述式問題の正答率が大きく下回っていた。	目標値を下回っており、特に地球分野とエネルギー分野の正答率が大きく下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットを活用し、映像などによって視覚的に理解を深め、問題集などを復習に活用して知識の定着を促す。	実験結果や考察を記述したり、自らの考えを発表したりする機会を増やし、事象や考えをまとめる機会を増やす。	実験や考察などの活動において、各自に役割分担や責任が生じるように授業形態を工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレット学習や映像などによって視覚的に理解を深め、問題集などを復習に活用して知識の定着を促す。	実験結果や考察を記述したり、自らの考えを発表したりする機会を増やし、事象や考えをまとめる機会を増やす。	実験では班内での分担を明確にして自己有用感を持たせる授業展開を行う。各単元の区切りで各自の学習を総括する時間を作ることで「主体的に取り組んだ自分」を振り返らせ探求する姿勢を高める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2～3時間に1回程度小テストを行い、基礎的な知識の定着を図る。授業で学んだ知識を定着させるために、生徒がお互いに説明、確認する時間を設ける。	実験の目的を明確にし、課題解決のための実験を計画し、実施する。実験結果をもとに課題解決を行うよう指導していく。タブレットを用いて自分の考えをアウトプットする機会を増やし、周りの考えに触れて考えを深める時間を多く設ける。	学習内容を身近な生活と結びつけた指導を行い、生徒の科学的に探求しようとする姿勢を促す。主体的に学ぶ態度の基礎を定着させる。

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ペアワークやグループワークを通して生徒同士が意見を共有することで、様々な自己表現活動に意欲的に取り組む生徒が多く見られる。
- ・対話文の聞き取りには積極的で、日常的な話題の概要把握をする力は身に付いている。

(2) 課題

- ・教科書の内容に基づいた基本的な語彙・文法の定着に課題が見られるため、理解度確認テストや単語テスト等を実施し、繰り返し基礎を確認する必要がある。
- ・書くことへの抵抗感を抱く生徒が一定数いるため、基本的な語彙・文法を用いて、書く力を段階的に身に付けることができるように活動を工夫する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	すべての観点において、目標値と同等か、それを上回っている。	/	/
第2学年	知識・技能の観点は目標値とほぼ同等で、それ以外の観点は目標値を下回っている。	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。	/
第3学年	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。	すべての観点において、目標値とほぼ同等か、それを上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近で簡単な語句を聞き、その意味を理解することはできている。英文の読み取りに課題がみられる。	日常生活に関する会話を聞き、理解する力は身に付いている。自分自身についてテーマに沿って書く力に課題が見られる。	例文を参考にしながら、行ってみたい国について、自分が伝えたい内容を書くことに課題がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの問題で、目標値と同等かそれを上回る結果となっている。予定や所有格の代名詞、三単現に課題が見られる。	適切な情報の読み取る問題や、自分の考えを伝える問題の正答率が高い。文脈に合わせて相手に伝えようと表現することに課題が見られる。	文脈に合わせて相手に伝えるように書く問題への取り組みに課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書の内容に基づいた新出単語や既習の単語の定着に課題がある。各単元で学習した文法の理解と定着がまちまちである。	長文読解を読み解く力に課題がある。例えばスピーチなどの英文原稿を書くときの構成パターンに慣れつつある。英文の正確さと表現力に課題があるものの好きなテーマで書くことへの試みや努力がみられる。	学習の現況として粘り強く自己の学習具合を調整しながら興味を持って次のステップへ向かおうとする姿勢に個人差が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書を利用し、基本的な語彙・文法知識の補充を図る。音声や視覚的な補助を効果的に利用し、読むこと・書くことへの抵抗感を減らしていく。	ペアワークやグループワークを取り入れ、生徒同士がアイディアを共有する言語活動を多く取り入れ、表現を理解したり活用したりする機会を増やす。共有した内容を自己表現に生かしていく。	様々なテーマに応じた表現を身に付け、実際に使うことができるよう、毎時間のペアワークやパフォーマンステストの工夫をする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法事項を指導する際、タブレット PC を活用したドリル活動を実施し、目的をもって文法事項を使用する言語活動の充実を図る。	パフォーマンス活動において、聞き手や読み手の意識を高めるため、ピアフィードバックを取り入れる。	文脈を読み取り、相手に伝えようと粘り強く取り組む姿勢を高めるため、同じ題材を繰り返し取り組む活動を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレット PC を活用したドリル活動を実施し、目的をもって文法事項を使用する言語活動の充実を図る。また、エイゴラボの反復学習を促して、新出単語や文法事項のインプットの充実を図る。	ALT を活用した言語活動やスピーキング・テストを企画していく。同時に書く力も養成するためグループやペアで会話した内容を書かせるなどアウトプットを重視した授業を目指す。	グループ活動を多く取り入れて日頃の生徒の活発さを英語の発信への練習に向かわせることで各個人の学びに向かう姿勢構築に繋げていく。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・器楽の授業においてハンドベルに取り組み、「姿勢・音色・表現」を意識させ、基本的な表現の技能を身に付けることができた。
- ・和楽器の指導において、基本奏法を中心とし、楽器に親しませることができた。
- ・歌唱表現において、基本的な技術の指導をすることができた。
- ・鑑賞において、総合芸術である歌舞伎や日本伝統芸能の雅楽、世界の諸民族の音楽を扱い、音楽的知識・音楽的感受性の幅を広げることができた。

(2) 課題

- ・合唱及び歌唱における表現（表情）の基礎的な技術の習得及び表現の工夫に課題がある。
- ・鑑賞において、音楽を感受したことを「言葉で表す」ことに課題がある。
- ・学んだ知識を自分の表現につなげることに課題がみられる。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱に対して、自信をもって取り組んでいる生徒が多い。 リズム表現においては、意欲的に取り組む生徒が多い。器楽・創作に対し苦手意識の強い生徒が多い。	鑑賞における思考に苦勞している生徒が見られる。 音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞し、知覚・感受したことを言葉で表すことに苦手意識がある。	歌唱に対する意欲・関心は高い。豊かな表現力を高めるための取り組みに対して自信のない生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱に対して、積極的に取り組んでいる生徒が多い。 リズム表現においては、意欲的に取り組む生徒が多い。器楽・創作に対し苦手意識の強い生徒が多い。	鑑賞における思考に苦勞している生徒が見られる。 音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞し、知覚・感受したことを言葉で表すことに苦手意識がある。	主体的に学習に取り組む態度に課題が見られる。 音楽に対する意欲・関心が高い。また、歌唱以外の学習に対しても、興味・関心をもって取り組んでいる生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
鑑賞においては、興味をもって取り組む生徒が多い。 器楽・歌唱・創作に対する苦手意識を強くもつ生徒が多い。	音楽をよく聴き、落ち着いて鑑賞している生徒が多い。知覚・感受したことを言葉で豊かに表すことに苦手意識がある。音楽の基礎的な知識が定着してきているが、それらを表現につなげることに課題がある。	主体的に歌唱に対する意欲・関心は高まってきたが、豊かな表現力を高めるための取り組みに対して自信のない生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作において様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、表現の幅を広げる。	授業規律の徹底及び基礎的な能力の定着を図る。授業の開始時に本時の内容を明確に提示し、活動に入りやすい導入を工夫する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作において様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
器楽・創作における基礎的な技能を身に付けられるように授業で反復練習を行う。また様々な演奏を聴く。それらを自分の表現につなげられるようにする。	音楽の基礎的な知識の定着を徹底する。また学習した知識を表現につなげられるように、様々な演奏を聴き、歌唱し、表現の幅を広げる。	学習したことに自信をもって意欲的に表現できるように、「身近な周りの音楽(音)」と関連させ、自ら表現できる生徒を育成する。

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年…基礎を道具の使い方から学び、色を丁寧に塗る技術を身に付けた。
- ・第2学年…既習の技術を活かし、自主的に創意工夫をして造形制作をすることができた。
- ・第3学年…1, 2年次に学んだことを活かしながら制作に取り組んでいた。創作作品にはより多角的な視点をもって取り組むことができた。

(2) 課題

- ・完成までの見通しを立て作品作りを進めることを苦手とする生徒が多い。
- ・与えられた課題には取り組めるが、創作作品で表現したい主題を主体的に考えることができない。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
美術の基礎を知識として学んでも、実践となると特に細かい作業で活かしきれない。	与えられた課題には取り組めるが、自ら考え主題を立てることができない生徒が多い。	意欲的に取り組むことができているが、仕上げが不十分な生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
粘土の取り扱い方や芯材の取り扱い方の理解が不十分である。	自ら主題を決め取り組むのに時間がかかり、作品を完成させることができない生徒が多い。	題材に興味を持ち、意欲的に表現しようとするが、作業自体に集中できない生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な描き方を理解し、正しい表現の仕方での学習したことを活かし、制作することができている生徒も多い。	主体的・多角的に対象物の特徴を捉え、表現し制作することが不十分である。	主題を主体的に考え意欲的に取り組むことができている生徒とそうでない生徒の差がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な道具の使い方や知識の定着を図る。ものづくりでは素材の特徴や道具の扱い方を身に付けていく。	写真や動画などさまざまな素材を参考にし、発想を広げやすくするよう、タブレットを活用する。	振り返り、相互後評価を行う中で他者の作品を参考にし、次の作品や次の学期へと繋げられるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色や道具についての振り返りを行い、学んだことを活かしながら制作を進められるようにする。鑑賞により知識を深める。	多様な題材を提示し、美術と関連する身近なものを取り上げ、作品制作に自発的に取り組めるよう工夫する。	自分の作品を客観的に鑑賞し、他者の作品を鑑賞することによって、自らの制作に生かせる振り返りを行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
制作を通して歴史的知識や作り方などを身に付ける。道具の特徴、扱い方を理解する。	発想を広げやすくするよう、より多様な技法、素材を提示する。	制作を振り返り、今後の流れを確認する。相互評価を行い、他者の作品を鑑賞することによって、他者の考えや制作の意図を参考にする。

令和6年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器を活用して視覚的に技術の向上を確認させ、生徒に意欲的に取り組ませることができた。
- ・单元ごとに学習カードを記入させ、学習の振り返りをさせることができた。

(2) 課題

- ・ICT機器を効果的に活用し、主体的に学習に取り組む態度を育む。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ハードル走の技能やバトンパス、バレーボールなど、習得しているはずの学習内容に差が見られ、技術に差がある。	意欲的に取り組んでいるが、運動の特性や技術習得に対する工夫がやや不足している。	授業に取り組む意識は高いが、個々の課題を追求し、改善点を見出す力はやや不足している。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得については、定期考査の結果から全体的に向上傾向が見受けられる。技能については、運動に慣れてきたこともあり、全体的にボール操作は上達している。	安全面に配慮しながら活動できている。自分で工夫して活動できる生徒と運動の特性の理解と表現が難しい生徒の二極化が見られる。	個々の技能の向上に向けて、自己の課題に取り組むことはできるが、チームの課題を発信する力が不足している。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得については、定期考査の結果から、全体的に向上傾向が見受けられる。技能については、バトンパスや走り方などで、スピードを上げるための効果的な動き方ができている。	安全面に配慮しながら活動できている。自分の改善点を分析し、解決していくことが課題である。	個々の課題について、改善点を見出しながら取り組める生徒とそうでない生徒が二極化している。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な技術のポイントを押さえながら論理的に教え、身体の使い方を覚えさせるために授業内の活動量を増やす。	学習カードを積極的に活用して自己の課題を考えさせ、表現できるようにしていく。	自己の課題を明確に提示させ、技術取得の段階に応じた場の設定を工夫する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペアやチームでの活動を積極的に活用し、より深い知識の習得を目指すとともに技能の習得を目指す。	自己の改善点を分析し、解決していけるよう、学習カードを活用して言語活動を充実させる。	学習カードやタブレットを用いて常に振り返りを行い、自ら取り組み、考える意識を育むとともに、学習への興味・関心を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能の習得に向けて、運動技能のポイントの理解を深めるために、実際に体を動かす活動を多く取り入れる。	学習カードを活用して、言語活動を充実させるとともに、ペア・グループ学習を常に実施することで自己の課題を考えさせる。	学習カードやタブレットを用いて常に振り返りを行い、自ら取り組むことで、考える意識を育むとともに、学習への興味・関心を高めていく。

令和6年度 技術・家庭科（技術分野） 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器を活用し、興味・関心を高めることができ、安全でわかりやすい授業を展開できた。
- ・振り返りシートを活用し、作業進度を各自が確認しながら作業に当たることができた。

(2) 課題

- ・生活の中にある問題を見つけ、自ら考え課題を解決する能力を身に付ける。
- ・ICT 機器を活用し、授業の振り返りの入力や作業方法を提示できるようにし、主体的に学習を進められる力を付ける。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した知識を実習の中で活用できている生徒が多い。	自分の考えたこと表現しようとしているが、うまく書き表すことができない。	個人差はあるが、ねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した知識を実習の中で活用できている生徒が少ない。	学習した内容の定着は比較的高いが、自身の考えを他者に伝えることに課題がある。	個人差はあるが、ねばり粘り強く学習に取り組むことができない生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習した内容を実習の中で活用することができる生徒が多い。	これからの生活や作品づくりに生かし、課題に取り組んでいる。	個人差はあるが、比較的ねばり粘り強く学習に取り組むことができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思うことができる授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、振り返りシートを活用し、自分の言葉で説明ができる能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業に対する具体的な指示を明確にすることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思える授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、振り返りシートを活用し、自分の言葉で説明をするなど表現する能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業の具体的な指示を行うことで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が「できた」「わかった」と思うことができる授業を展開する。また、その内容を分析し、知識・技能の定着を図る。	作業の中で自ら考え行動に移す能力を高める。また、作業工程をタブレットでまとめ、説明ができる能力を高める。	生活の中にある課題から興味を持つ内容を取り上げ、学習意欲を高める。 生徒用タブレットを活用し、作業に対する具体的な指示を明確にすることで、生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。

令和6年度 技術・家庭科（家庭分野） 授業改善推進プラン

大田区立南六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体験的、実践的な活動を多く取り入れることにより、生徒の主体的な学びを深めることができた。
- ・ポートフォリオによる計画・実践・評価・改善を行い、自ら課題を解決する能力を身に付けさせることができた。

(2) 課題

- ・学習内容によって生徒の興味関心や学習に向かう姿勢に差がみられることが課題である。
- ・学習内容の定着をめざし、ICT機器の効果的な活用方法が課題である。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での既習内容の定着度、知識習得内容の差が大きい。	自分や家族の食生活を振り返り、課題を発見することはできるが、生活をよりよくしようとする具体的な改善策の工夫が必要である。	課題に取り組む姿勢、課題を見い出そうとする意識は高いが、具体的な改善策を導き出そうとする取り組みはやや少ない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な学習内容の定着、レポートをまとめる力等、個人差が大きくみられる。	自分や家族の衣生活を振り返り、既習内容を活用しながら、問題を改善、工夫しようとしている。	自分の生活に身近な課題についての関心が高く、これからの生活に生かそうとする意欲は高い。粘り強く取り組もうとする態度は個人差が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教材の活用や振り返り学習を行い、基礎的内容の定着が図られているが、活用する力に個人差が見られる。	ICT機器を活用し、様々な情報を自分なりに上手く活用しながら、これからの生活課題や作品づくりに取り組んでいる。	他者との比較や様々な情報との比較を通して、課題を解決していこうとする意欲が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校での学習内容を確認しながら、教材開発および授業展開を行う。既習内容を振り返る場面や繰り返しの学習を充実させ、知識・技能の定着を図る。	自分や家族の生活を振り返り、見出した課題や、収集した様々な情報等を、これからの生活に生かしていく思考力を育成する。	自分や家族の生活を振り返る場面を多く取り入れていく。 ICT機器の活用や、自己評価や相互評価、協同作業を積極的に取り入れ、より自分の生活に関心をもてるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT機器を活用した一斉指導と個別指導を効果的にを行い、技能の定着を図る。体験的な活動を通して、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	自分や家族の生活を振り返り、見出した課題や、収集した様々な情報等を、これからの生活に生かしていく思考力を養う。	自分や家族の生活を振り返る場面を多く取り入れ、自ら考えようとする力や意欲を高める。作品製作において、ポートフォリオを用いながら、計画・実践・評価・改善を繰り返し、学習への意欲を高める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT機器を効果的に活用し、知識・技能の定着を図る。家庭学習を含め、既習内容を振り返る場や繰り返しの学習を充実させ、基礎的内容の定着を図る。	自分や家族、地域社会の生活を振り返ったり、様々な情報を収集したりする中で、見出した課題を解決していく力、これからの生活に生かしていく力を養う。	作品製作において、ポートフォリオを用いたり、相互評価を行ったりしながら、自己の振り返りと学習への意欲を高める。